

研究成果情報1

〔成果情報名〕水禽ヒナのニューカッスル病移行抗体の推移およびサルモネラワクチン接種後の抗体価の推移

〔要約〕アイガモの種禽に対してニューカッスル病（ND）ワクチンを接種した場合、ヒナへの移行抗体は、ふ化後40日目には消失する。一方、サルモネラ（Sal）ワクチンを種禽に接種した場合、接種後120日目には抗体価が消失する。

〔キーワード〕水禽、ニューカッスル病、サルモネラ、ワクチン、抗体価

〔担当〕山梨県畜産試験場 養鶏科

〔連絡先〕055-273-6441

〔区分〕関東東海北陸・畜産草地（中小家畜）

〔分類〕技術・参考

〔背景・ねらい〕

アイガモ農法の広まりに伴い、家禽と共通する伝染病の防除に関する周辺養鶏農家の要望が高くなっている。なかでも法定伝染病であるニューカッスル病（ND）は発生すると移動制限等、周辺養鶏農家への影響が大きく、アイガモ飼養農家においても十分な予防対策が望まれる。

本試験では種禽にNDワクチンを接種した場合について、ヒナへの移行抗体価の推移を明らかにするとともに、種禽に対してサルモネラ（Sal）ワクチン接種後の抗体価の推移についても併せて調査した。

〔成果の内容・特徴〕

〔ND：移行抗体価の推移〕（表1、図1）

・NDワクチン接種後1ヶ月後の受精卵のヒナでは、10日齢時で4割の個体が5倍以下の抗体価を示し、40日齢時では全ての個体が5倍以下の抗体価を示した。

〔Sal：ワクチン接種後の抗体価の推移〕（表2、3）

・Salワクチンの抗体価は120日で全ての個体で1倍以下となる。

〔成果の活用面・留意点〕

・NDワクチンの移行抗体はふ化後40日目には消失するので、ヒナへのワクチン接種は早期に行うことが望ましい。

・Salワクチンの抗体価は、接種後120日で消失するので、必要に応じて追加接種する必要がある。

〔具体的データ〕

表1 ND 移行抗体試験

受精卵採取時期	ワクチン接種後30日目
抗体価測定	ふ化後10、20、30および40日

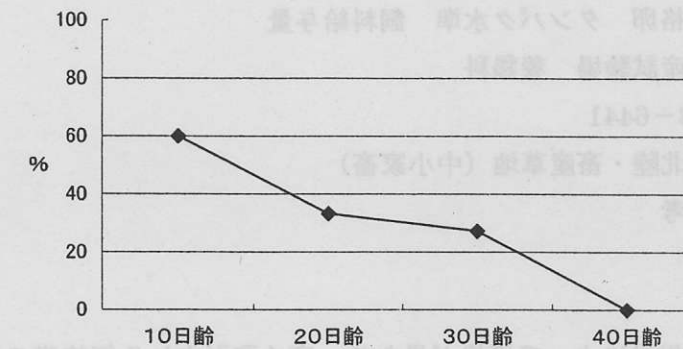


図1 抗体価5倍以上を示した個体の割合

表2 Sal ワクチン接種の検討

接種時期	300日齢
抗体価測定	接種後30日、60日、90日および120日

表3 Sal 抗体価の推移

接種後日数	陰性	擬陽性	1倍	2倍	4倍	8倍
30日	1	1	1			1
60日	1	1	2			
90日	2	1		1		
120日	4					

〔その他〕

研究課題名：水禽衛生プログラムの検討

予算区分：県単

研究期間：平成13～15年度

研究担当者：小川 陽介、松下 浩一、西尾 進

発表論文等：畜産試験場研究報告第51号掲載予定